

五拾貫八百文

佛事錢

參貫文

御屋形代替返禮

貳貫文

向殿同

已上佰廿參貫貳百八十三文

下行

拾四貫六百二文

先勘過上分納所方へ渡之

四拾七貫八百七十二文

興臨院殿佛事料返辦之

貳拾三貫七百卅文

惡錢賣損

已上八拾六貫貳百七文

殘參拾七貫七十六文

天文廿一年二月十九日

紹三 宗光

四月四日。長尾景虎、藏田五郎左衛門をして、

先を上洛の途を開かしむる爲加賀に遣はしたる

信濃笠原本誓寺超賢の勞を謝せしむ。

【本誓寺文書】

越後

一三五二

急度啓之候。仍信州亂中付、越國東里ニ御滞留、連々申談

候。就中於、向後も、毛頭不可存疎意候。猶以內々承之

子細、傍輩共不可有無沙汰候。然而今般御馳走本望之至

候。以御意見賀州路次中無相違候事、御持簡心候。自今

以後者彌以御深志候様、各御入魂尤候。委細倉田五郎左衛

門尉可申分候。恐々謹言。

四月四日

資 在判
綱 在判

本誓寺

御同宿中

(天文廿三年三月十三日の條參照。)

天文廿三年

甲寅

紀元二二一四

二月五日。本願寺證如、畠山義續に、舊冬牢人

亂入の際之を討ちて勝利を獲たるを祝す。

【證如上人書札案】

一三五三

舊冬貴國牢人衆令亂入候處、被及一戰、數多被討捕、即

敗北、御本意之段尤珍重候。御取亂中早々示預候。喜悅候。

猶下間左衛門大夫可申候。恐々謹言。

二月五日

左衛門 佐殿

御返報

二月十四日。能登守護畠山義綱の被官温井紹春、

同續宗、山城東福寺栗棘庵に、舊冬遊佐續光等

の侵入せし狀を報す。

【栗棘庵文書】

山城

一三五四

將又御寺領之儀、堅下總守に申付候。然共亂後已來一

向不相調候由申候。尙以無疎略急度可申付候。

就爰元之儀、態被差越御飛脚候。御懇之儀畏入存候。仍

此方牢人舊冬極月十日出張仕候に付而、自河内遊佐源

五・安見紀兵衛、爲合力遊美罷立候。從加州も六七千罷

立候。敵田鶴濱・大槻与申所を陣取候。自城際者四五里相

隔候。然處舊冬廿七日兵庫爲番手相働候之條、我等も罷

出候處、敵越惡所相働候之條、取懸及一戰即時切崩、駭

【栗棘庵文書】

一三五五

河子息、遊佐彈正左衛門・同右近・同大夫・加治中務丞・後

藤備前、加州之者、其外雜兵四百餘人討捕候。翌日八日遊

美田鶴濱を令自落、加州へ罷退候之處ヲ、自此方一宮与

申地迄追懸、遊佐孫四郎・同孫八郎・同五郎兵衛・千手院・

伊丹宗右衛門・丸山出雲守・同丹後・河野藤兵衛、其外河内

衆遊佐源五・安見紀兵衛・加州之者都合四千餘人討捕、其

外討捨、追々於所々討留候儀不知數候。遊佐豊後入道・

平左衛門六郎者、此方へ生捕候。早速靜謐之姿候間、可御

心安候。遊美者越前へ罷退候。隨而京都南方邊之儀、近日

者無異儀之由候。珍重存候。相替儀候者乍恐可被仰下

候。委曲御飛脚可被申候條、不能審候。恐々謹言。

二月十四日

栗棘庵參 貴報

温井備中入道

栗棘庵參 貴報

紹 春